

# ヒアリ *Solenopsis invicta* の見分け方と対処法

愛知県自然観察指導員連絡協議会 調査・保全担当理事 瀧崎 吉伸

## 見分け方

全身が赤茶色（腹部の先は暗色）で3~6mmと、比較的大きい。

（日本産の赤茶色のアリ（同属のトフシアリなど）は1~3mmと小さい）

働き蟻の大きさが3~6mmまで、連続的に変化する（兵アリはいない）。

いろいろな大きさの赤いアリが行列を作っていたら、疑い大。

腰の背中側に二つのコブがある（腹柄は2節）。頭は極端に大きくない。

（類似の在来種オオズアリは、頭部が明らかに大きい）

触覚が10節。先端の2節が長く、棍棒状で終わる。複眼は15個以上の個眼からなる。

頭循前縁中央に小突起

（口元真ん中に小突起）。

尾端がとがり、針がある。

巣は直径25~60cm、高さ15~50cm

の蟻塚。触ると危険。

## 対処法

見つけたら、必ず中部地方環境事務所(052-955-2130)か自治体に連絡。

少数個体なら、市販のアリ用殺虫剤を用いて殺す。

殺したアリを標本にしておく（確認用に死骸を保存する）。

巣があったら、毒餌を置く。

## 刺されたら

基本的にはアシナガバチに刺されたのと同じ。ただし、ヒアリは何度も繰り返し刺す傾向があるので、

注意する。抗ヒスタミン剤などの虫刺されの薬が有効。

刺された直後にポイズンリムーバーがあれば使う。しばらく安静にし、万が一声がれ・めまい・悪心・激しい動悸・息苦しさなどが生じたら救急車を呼ぶ（ヒアリに刺されてアナフィラキシーショックの恐れと伝える）。

## してはならないこと

アリを何でも怖がって、在来のアリを殺してしまうこと。

アリは縄張り意識が強く、他の種のアリの侵入を防ごうとする。在来種がいなくなればニッチが空いて、移入種が定着しやすくなる。

